

ヒューマンコミュニケーショングループ

## Human Communication Group

ニューズレター

2001 年度 No. 2

URL : <http://www.ieice.org/hcg/jpn/>

### Contents

- ・ 2001 年ソサイエティ大会特別企画報告
- ・ 研究会の活動報告
- ・ イベントのお知らせ

### 2001 年ソサイエティ大会特別企画報告

「障害者、高齢者が参加し易い IT 化社会」

福祉情報工学研究会(WIT)幹事

畑岡 信夫 (日立)

昨年 9 月 18 日に、電気通信大学にて開催されました秋のソサイエティ大会での特別企画に関して報告致します。本企画は、ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)と情報・システムソサイエティ(ISS)の合同企画として実現し、表題のタイトルで、米国 MIT からの基調講演を含めて、パネル討論と一般発表で構成しました。必要経費は、本部活性化基金を利用しました。本企画の発端は、現在 IT 化が進む社会環境の中で、障害者・高齢者への対応は十分考慮されているのだろうか？また、最近良く聞く言葉である「ユニバーサルデザイン(以下、UD)」とは何なのか？に対する回答を得ようとした企画です。

基調講演としては、MIT の高齢者研究所(AgeLab)の J.Meyer 博士による“Living Longer, Living Well: Technology, Aging, and the Future of Home Health”と題した講演と、(株)ユーデットの関根氏による「情報のユニバーサルデザイン」の 2 件がありました。

パネル討論は、UD 対応の最前線でご活躍されている 4 名の方々をパネリストとして迎え、基調講演者の関根氏を司会者として行われました。UD とは、年齢や障害の有無などに関係なく、誰でもが使えるように工夫された商品、情報アクセス手段等に関して付与される言葉です。コスト的には若干高くなりますが、今後の製品開発には必須の捉え方であると思われます。以下に、パネリストの方々のお名前と発表内容を簡単に報告します。

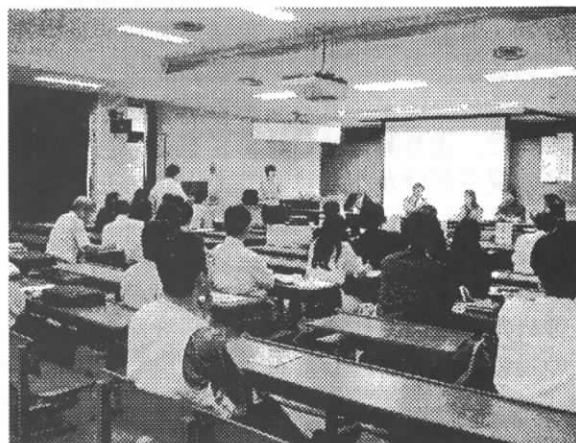
- ① 吉岡松太郎氏 (人間生活工学研究センター): 人体計測データの収集と利用法に関

して。

- ② 豊田興太郎氏 (松下通工): 携帯電話の UD に関して。
- ③ 池田千登勢氏 (NEC デザイン): 銀行の ATM などを例として、UD のガイドラインに関して。
- ④ 山崎和彦氏 (日本 IBM): 米国中心のアクセシビリティに関しての警鐘等。

「ユニバーサルデザイン」に関する活動は、「草の根的運動」が必須であることと、我々技術者の「意識改革」が必要であることを痛感しました。また、エンドユーザとの接点でご活躍されている発表者・関係者との議論は、異なった観点からの考え方やアプローチを知る上でも、有意義でした。

今回の特別企画の計画と実施は、福祉情報工学研究会(WIT)(市川熹委員長)が行いました。当日は、約 100 名の参加者があり、特別企画は成功であったと安堵するとともに、福祉関連の話題は会員の関心が高いと再認識しました。関係者の皆様に感謝いたします。



パネル討論の会場風景  
(パネリストと手話者)

## 研究会の活動報告

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)では、4つの第一種研究会と1つの第三種研究会が研究活動を進めてまいりましたが、今年度には、新たな第二種研究会として、「インタラクションによる知識の創生に関する研究会」の設立が認められました。本号では、これらの中から、2つの第一種研究会の活動報告と、新しく設立された第二種研究会の主旨などについて紹介します。

### 研究会の活動報告①

ヒューマンコミュニケーション基礎  
研究会 (HCS)  
専門委員長 山田 寛 (日本大学)

本会は、平成5年、現ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)の前身であるヒューマンコミュニケーション研究専門委員会(第一種研究専門委員会)の下に第三種研究専門委員会として産声をあげました。そして、平成7年にHCG設立時において第一種研究専門委員会となり現在に至っております。初代の委員長が、北海道大学の伊福部先生、2代目が、大阪大学の西田先生、3代目が宇都宮大学の鎌田先生、そして4代目が私になります。

本会の設立主旨を簡単に申し上げますと、それは、人間の特性、特に人間と人間のコミュニケーションの特性を理解し、それを支援するための通信技術にかかわる基礎的研究を発表できる場、またそれに関連する研究を行っているような他の学問分野の研究者との幅広い議論や交流ができるような場の提供にありました。より具体的には、従来の通信技術開発の視点だけからではなく、人類のための福祉を意識し、人間の感覚、知覚からはじまり、社会的コミュニケーションの研究を扱っている心理学や社会学、さらにはその他の分野を含めた学際的、総合的分野の研究発表、討論の場の提供を目指した訳です。

本会では、以上の設立主旨に基づいて他学会などと連携をはかりながら、これまでに毎年、5、6回の研究会を開催して来ました。ここでようやく活動報告になる訳ですが、本年

度も6回の研究会を計画し、すでに4回の研究会を開催致しました。それぞれの研究会のテーマ(共催等の団体)は、第1回が、「画像情報技術とコミュニケーションおよび一般」(映像情報メディア学会・画像情報システム研究会)、第2回が、「コミュニケーションの生理・心理および一般」(ヒューマンインタフェース学会)、第3回が、「障害を持つ人々へのコミュニケーション支援および一般」(映像情報メディア学会・画像情報システム研究会、日本リハビリテーション工学協会コミュニケーションSIG、感覚代行研究会)、第4回が、「コミュニケーションと顔および一般」(日本心理学会、日本顔学会など)というものでした。さらに、本年度は、来年の1月に「ノンバーバル・コミュニケーションおよび一般」(ヒューマンインタフェース学会、ヒューマン情報処理研究会)、3月に「エージェント・ロボットとのコミュニケーションおよび一般」(グループ大会)をテーマにした研究会を開催する予定です。

委員会の陣容も初期の設立メンバーからは大幅に代わり、さらに福祉情報工学研究専門委員会が設立されるなど、本会を取り巻く環境も変わって来ましたが、次世代通信技術の研究開発の種となるような様々な基礎的研究の発表の場を提供して行くという方針は今後も変わらないと思います。皆様には、ぜひともこうした本会の活動を暖かい目で見守り、応援していただきますようお願い申し上げます次第です。

### 研究会の活動報告②

ヒューマン情報処理研究会 (HIP)  
専門委員長 土井 美和子 (東芝)

本研究会はその名が表すように、人間に関わる情報を扱っています。本研究会の特徴は、情報通信にとどまらず、心理や認知などの異分野からも参加して、研究成果を発表し、討議できる場を提供している点です。このような境界領域での活動を円滑にかつ活発に進めるために、種々の工夫をしています。年6回開催する研究会では、毎回、「顔とジェスチャ」「感性情報」「ノンバーバル」などのテーマのもと、顔認識、3次元画像処理、ヒューマンインタフェース、視覚心理、聴覚心理、認知

心理、実験心理、色彩認知など、種々のバックグラウンドをもつ専門家たちが、共通のテーマのもと、議論できるようにしています。他の学会活動ではなかなか知り合う機会のない、心理研究者たちと、同一テーマで議論できるというのはなかなか貴重です。また、心理研究者からも、日ごろの研究が、きちんと学会の技報という形で残る点を、評価していただいています。本研究会での発表が縁となり、心理学のシンポジウムで、情報通信の研究者が講演に招待いただくという新たなネットワークも生まれています。このような研究会活動を支えるテーマ設定などは、上述の種々の分野からの専門委員に検討いただき、研究会を運営しています。

従来は、人間自身に関わる情報に焦点をあててきました。来年度からは、活動範囲を広げ、人間と社会との接点での情報も対象にした「空間に広がるインタフェース」というテーマで GIS (地理情報システム) などの分野とも交流を図っていきます。情報通信の発展に伴い、人間の情報処理活動が活発化していきます。本研究会もその発展に先行し、他分野と交流し、新しい研究視点を与えられるよう、活動していきます。皆さんもぜひ、ご参加ください。

研究会の活動報告③

インタラクションによる  
知識の創生に関する研究会  
—社会科学系との新しい関係の構築—  
委員長 橋本 秀紀 (東京大学)

私たちのまわりは様々なインタラクション(相互作用)に満ちています。微視的には原子同士のインタラクションから大きくは文明同士の衝突というインタラクションまであります。もちろん本研究会が対象とするインタラクションは、意思を持った人間が引き起こすインタラクションです。このインタラクションこそが新しい知識を創生するのです。

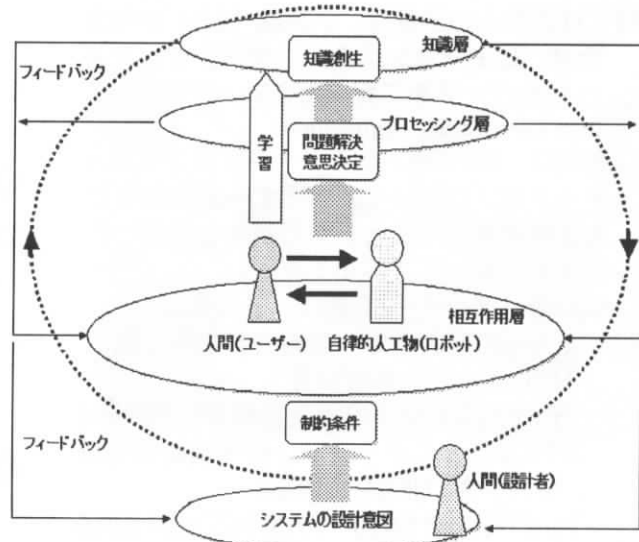
知識の創生を考えると、人間の知的能力そのものに向き合う必要があります。この知的能力は人間個体に属するものであると同時に、その社会そのものの存在自体に大きく依存します。従って、工

学だけの限られた見方ではなく、広く社会科学系の知見を要します。真に学際的な共同研究によって、人間の行う知識創生に切り込むことができます。

この共同作業のキーとなるのは、工学及び社会科学双方で共通に議論されているインタラクションです。本研究会では、このインタラクションを中心に人間の行う知識創生に取り組みます。

本研究会が活動を行う上で想定している「インタラクションによる知識の創生」の基本的な構造を下の図に示します。最初に我々が解こうとする問題を設定します。例えば、ロボットを用いて部屋の掃除を行うとします。人間とロボットの相互作用が生じる相互作用層と、そこから得られる様々なデータを基に掃除という問題を解決するプロセッシング層、そしてロボットが掃除をするという知識が創生される知識層の3つの層を考えます。同時にこれら3つの層をデザインする設計者の存在も考慮します。

この構造は、知識の創生を明らかにするにはシンプルすぎ不十分ではありますが、本研究会が問題をクリアに定式化するには妥当なものです。本研究会はこの構造に基づき議論を深め、「インタラクションによる知識の創生」に関して新しいコンセプトを作り上げていくことを目指すものです。ヒューマン・マシン・インターフェースといった従来のターミノロジーも含みますが、より広いものであり社会科学まで取り入れ、全く新しいディスプリンとして創造して行くことを試みます。



## イベントのお知らせ

### ヒューマンコミュニケーション グループ (HCG) 大会

企画幹事  
管村 昇 (NTT)

電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) では、恒例となりましたグループ大会を開催いたします。グループ大会では、HCGの4研究グループに加え、第二種研究会「インタラクションによる知識の創生」、特別講演「街の情報化を考えるー“いまだけ・ここだけ”の情報環境デザイナー」原島博 (東京大学)、HCG セミナー「情報の検索・探索技術」を開催します。皆様奮ってご参加ください。

#### ●大会概要

日時：平成14年3月7日(木) 9:00~19:00  
3月8日(金) 9:00~19:00

※開始時刻および終了時刻は各研究会により異なります。

会場：工学院大学 (新宿校舎)

〒163-8677 東京都新宿区西新宿 1-24-2  
<http://www.kogakuin.ac.jp/map/shinjuku/index.html>

第一会場 0762 教室 (定員：80名)  
第二会場 0765 教室 (定員：180名)  
第三会場 0715 教室 (定員：130名)  
セミナー会場 第二会場と同じ  
懇親会場 ファカルティクラブ

◎プログラムの詳細は、学会誌 (2月) 会告または、ヒューマンコミュニケーショングループのページをご覧ください。

<http://www.ieice.org/hcg/jpn/>

◎懇親会 8日(金) セミナー終了後ファカルティクラブにおいて、セミナー講師および大会参加者を対象とした懇親会を開催いたします。奮ってご参加ください。

◎参加費 (3000円 (予定)) : 当日徴収

◎セミナーの事前登録・懇親会参加申し込み  
・HCG大会問い合わせ先

〒619-0237 京都府相楽郡精華町光台2-4  
NTTコミュニケーション科学基礎研究所  
管村 昇 (HCG企画幹事)

Tel.(0774)93-5010 FAX.(0774)93-5015

E-mail: sugamura@cslab.kecl.ntt.co.jp

### 市民公開講座

企画幹事  
竹村 治雄 (大阪大学)

今年の市民公開講座は関西地区で開催し、中学生以上の一般の市民の皆さんを対象に、ヒューマンコミュニケーション技術およびバーチャルリアリティ技術について幅広く解説するシンポジウム講演やパネルディスカッション等を予定しています。また、京都大学や大阪大学、奈良先端大など、近隣の大学の研究室からの関連分野の研究成果のデモンストレーションも予定し、最新技術を身近に感じてもらいたいと考えています。

#### ●市民公開講座概要

日時：平成14年3月16日(土) 10:00~16:00

会場：キャンパスプラザ京都  
(JR 京都駅徒歩3分)

<http://www.consortium.or.jp/center/>

対象：一般市民 (中学生以上)

テーマ：

バーチャルリアリティとコミュニケーションの未来 (21世紀のコミュニケーションのあり方を探る)

特別講演： 原島博 (東京大学)

「いい顔 いい心 いいコミュニケーション」

パネルディスカッション：

「バーチャルリアリティと通信が創る未来」

パネリスト 舘 暁 (東京大学)

高橋 隆 (京都大学)

中津良平 (ATR)

司会 岸野文郎 (大阪大学)

◎参加費： 無料 (但し事前登録が必要です)

◎問い合わせ先：

セクレタリアット

〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町1

京都リサーチパーク6号館 304号室

TEL&FAX: (075)315-4872

E-mail: secre@mbox.kyoto-inet.or.jp

◎最新情報は、ヒューマンコミュニケーショングループのページをご覧ください。

<http://www.ieice.org/hcg/jpn/>